

## 病害虫発生予察特殊報 第3号

### トマト立枯病の発生について

#### 佐賀県

1. 病害虫名：トマト立枯病

2. 病原菌名：*Fusarium solani-melongenae* (*Haematonectria ipomoeae*)

3. 発生作物：トマト

4. 発生の経過と概要

令和4年2月に、県内の施設トマト圃場において、株の萎れ（図1）および茎の内部が褐変する（図2）症状がみられた。さらに、一部の株では、地際部の褐色腐敗した茎の表面に赤色の小粒が多数形成されていた（図3）。

そこで、病徴部から菌を分離し、菌の形態観察（図4、5）および菌の遺伝子解析を行ったところ、本県未確認の *Fusarium solani-melongenae* (*Haematonectria ipomoeae*) によるトマト立枯病であることが判明した。

5. 国内の発生状況

平成2年に愛知県で初めて確認された後、宮崎県、広島県、三重県及び岐阜県で発生が報告されている。

本病原菌は、トマト以外に、ナスやピーマン等でも立枯病を引き起こすことが知られているが、現在のところ、県内では、トマト以外での発生は確認していない。

6. 病徴

葉の黄化や萎れが発生し、最終的に枯死する。茎の地際部には、褐変やひび割れがみられ、茎の内部は黒褐色に腐敗する。また、株の地際部や露出根部の罹病部表面に赤～橙色の小粒（子のう殻）が形成される場合が多い。

トマトには、トマト萎凋病など萎凋症状を示す病害が複数あるが、トマト立枯病は、赤～橙色の子のう殻が形成される点特徴的である。

7. 防除対策

- 1) 現在、トマト立枯病に対する登録農薬はないため、耕種的防除を行う。
- 2) 罹病株は伝染源となる恐れがあるため、圃場外へ持ち出して適切に処分する。
- 3) 定植前の太陽熱利用等による土壌消毒を、十分な期間を設け、実施する。
- 4) 過度の灌水を避けるとともに、圃場内の排水対策を徹底する。



図1 株の萎れ、葉の黄化（線で囲んだ部分）



図2 地際部内部の褐変（矢印）



図3 地際部の褐色腐敗（線で囲んだ部分）と子のう殻（矢印）

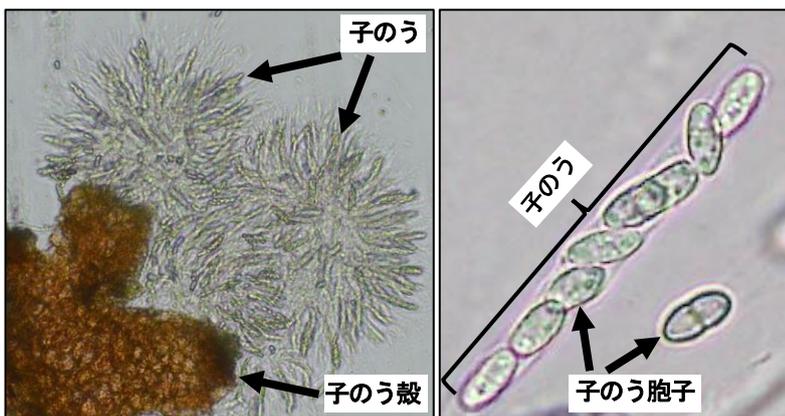


図4 子のう殻、子のうおよび子のう胞子  
注) 子のう殻の中に子のうが入っており、子のうの中に子のう胞子が含まれる。

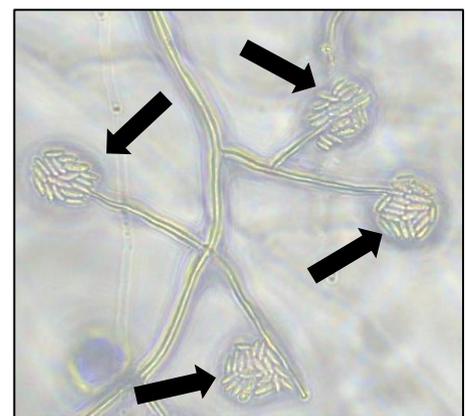


図5 培地上に形成された菌糸および小型分生子  
注) 矢印は、擬頭状に形成された小型分生子。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部  
〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085  
Mail [nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp](mailto:nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp)  
ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

